

「宮内伊予柑」の中間台木利用について

「宮内伊予柑」は栽培が容易で外観が良く品質が優れ、愛媛の主力品種となっているが、むきにくい、じょうのうが硬い、匂がわかりにくい等から消費が減少し、価格低迷が続いている。

一方、「宮内伊予柑」より食味や食べ易さが優れている新品種が数多く開発されており、これら有望な新品種への早急な更新が求められている。

そこで、瀬戸内島しょ部の気候に適し、樹上越冬が可能で匂の異なる品種を宮内伊予柑へ高接ぎした場合に親和性や樹体の生育、果実品質がどうなるか調査を行い、更新の可能性を探った。

品種は熟期が12月の「ありあけ」、1月の「あまか」、2月の「はるみ」、「サザンイエロー」、3月の「せとか」、「不知火」の6品種を用いた。

高接ぎ4年目の「ありあけ」、「あまか」、「はるみ」、「せとか」、「不知火」の収量は宮内伊予柑と同程度確保でき、このときの果実品質は温州ミカン中間台木の場合とほぼ同じであった。ただしサザンイエローは生育が不良であった。

この結果からみると宮内伊予柑を中間台木に用いて「ありあけ」、「あまか」、「はるみ」、「せとか」、「不知火」を高接ぎ更新すること

は現在のところ可能である。

ただし台木の宮内伊予柑及び穂木ががウイルス病等を保毒していれば樹勢や収量に影響を受けることが考えられるので注意が必要である。



写真1 宮内伊予柑中間台の育成状況



写真2 はるみの高接ぎ状況

(岩城分場 研究員 薬師寺弘倫)

表1 宮内伊予柑を中間台木とした新品種の樹冠容積と収量

| | 樹容積 (m ³) | 収量 (kg/1樹) | 平均果重 (g) | 果肉歩合 (%) | 糖度 | クエン酸 (g/100ml) |
|------------|--------------------------|---------------|-------------|-------------|------|-------------------|
| ありあけ | 2.7 | 8.3 | 122 | 77.9 | 13.9 | 0.74 |
| あまか | 2.9 | 10.6 | 181 | 76.6 | 8.9 | 0.69 |
| はるみ | 4.0 | 11.2 | 129 | 78.9 | 14.2 | 1.32 |
| サザンイエロー | 1.7 | 0.0 | — | — | — | — |
| せとか | 2.4 | 7.5 | 153 | 86.4 | 13.1 | 1.41 |
| 不知火 | 3.7 | 12.7 | 199 | 72.6 | 13.8 | 1.45 |
| 宮内伊予柑(無処理) | 3.5 | 11.2 | 287 | 69.9 | 10.2 | 1.45 |

(平成10年高接ぎ、平成13年12月13日調査)